

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 23年3月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目1番16号 (電話) 099-284-1582
自己評価作成日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「地域貢献」の基本理念のもと、地域と共に認知症をより深くより正しく理解してもらう様、地域住民の方と勉強会などを開催している。また、地域住民の方と一緒に介護劇なども行った。地域で暮らす事、地域で支える事の大事さを共に考えていると思う。今後も微力ながら地域に向けどんどん情報発信をしていきたい。ケアについては「予防」と「チームケア」を念頭に利用者の方に関わっているつもりである。今後もこの方針で利用者の良きパートナーになる様、努力して行きます。

【事業所の優れている点】

・当事業所は市の中心地に位置し、高齢者の支援を目的とした複合施設のひとつである。2階と3階がグループホームで他に通所介護・居宅介護支援事業所を併設している。4階は交流スペースとなっており、地域の中で認知症に対する理解を深めるための勉強会や介護劇などを一緒に行い、また事業所発行の新聞を地域に回覧するなどの交流を推進している。

・医療機関が母体の事業所であり、定期的な往診や緊急時の対応など協力医療機関との連携ができており、利用者や家族にとって安心できる環境である。

・家族会へのアンケートの実施や事業者からの便りを毎月家族へ送付しており、面会時など家族とのコミュニケーションを大切にし、家族からも評価されている。

【事業所の工夫点】

・小冊子「ただいま…おかえり」～認知症ケアに携わって～が作成してあり、地域での勉強会を行うなど、認知症についての理解を深めるための工夫をしている。

・町内会に加入し、地域の行事や小・中学校の運動会に参加している。防災訓練にも地域住民が参加しており、地域との交流を深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者との関係を思い、スタッフで作った理念である。スタッフもケアなどで行き詰まった時は、理念に立ち帰る様に意識している。	理念は開設時に職員全員で作成し、事業所内に掲示している。職員会議等で理念を確認し、毎朝唱和しておりユニットごとに理解を深め、日々の実践につなげている。家族へ毎月送付する新聞にも毎回、理念を掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。（十五夜、校区運動会、すこやか祭りなど）施設からも認知症に関する情報を発信している。（地域住民と一緒に介護劇や勉強会開催）	町内会に加入しており、事業所発行の新聞も地区に回覧している。小・中学校の運動会に招待されたり地区の十五夜等の行事に参加している。地域の中で認知症に対する理解を深めるための勉強会や介護劇を開催するなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症を正しくより深く理解して頂く様、地域の集会等での講習会や施設で支援方法の勉強会などを開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苦情や事故などの報告やグループホームでの課題などを報告し実情を理解して頂くと共に、意見を頂きサービスの向上と充実に生かしている。	運営推進会議に家族や民生委員・町内会長・老人会長・地域包括支援センター職員が参加し、活動内容等を説明し意見交換を行っている。会議のメンバーがボランティアで来訪するなど協力関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>介護保険法に関するアドバイスを仰いだり、介護相談員などの受入などを行っている。</p>	<p>高齢者福祉課や介護保険課へ出向いたり、電話等で情報交換を行っている。市の行事に招待を受け参加するなど、協力関係を築くために努力している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束は、利用者の権利を侵すものと繰り返し勉強会などで理解している。ただ施錠については立地条件の基、ご家族は良く理解され、利用者は安心していと思う。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、毎月の職員会議や勉強会で話し合い理解を深めている。玄関の施錠についてはホームが市街地の中心にあり家族に説明し了承を得ている。利用者が外へ出たい時を把握して、玄関を開放する等、自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、勉強会などで互いに学んでいる。むしろ虐待に繋がる、スタッフの認知症の理解と過度なストレスに注意しているつもりである。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、当施設で制度を利用している方はいない。必要があれば考慮する。制度については深くではないが、勉強会を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	分かり易い言葉や具体例を挙げて説明する様に心掛けている。出来るだけ文書等に残し、解らない時は繰り返し見て頂いたり問い合わせをしてもらう様、説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談を受ける投函箱の設置や家族へのアンケートや家族会などで意見を出して頂き運営に活かす様にしている。介護相談員の受入もしている。	玄関に意見箱を設置している。家族へのアンケートを実施したり、面会や家族会等での意見や要望を速やかに解決できるように努めている。管理者は、職員が利用者から日常の支援の中で要望を聞き取るスキルアップの重要性を大切にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや全体会議等で、意見を出してもらっているが、スタッフがもっと自由に意見を出せる雰囲気作りに努めている。	職員会議を毎月実施し、代表者や管理者は職員からの運営に関する意見を受けている。ユニットごとにも話し合いを持ち管理者が職員の要望を聞き代表者に報告している。代表者や管理者は個人的にも職員の意見や要望を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は出来る限りスタッフに声かけする様に努め、スタッフに関する待遇については検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は理解を示し、多くの職員が外部、内部研修に参加出来る様に計画を立てている。また管理者には新規採用者の研修計画を立て業務やケアが理解しやすい様にアドバイスしたりしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は理解しておりその一環としてグループホーム協議会に加入し情報交換を行う事を後押ししている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用するまでに訪問し、面会し本人の意向は把握する様にしているが不十分なところもある。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ、家族の意向を聞く様にし、理解する様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントで日常生活動作の低下を防ぎながら、安心して生活出来る様に支援計画を作成している。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事を一緒に行いコミュニケーションを取りながら生活している。暮らしの知恵を伺いスタッフが学べる場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の参加等一緒に時間を共有して頂ける機会を設けている。思いもそれぞれなので、ご家族の出来る範囲で頂き、押し付けにならない様に気をつけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を設け、よく利用していたお店や、町を散歩するなど見慣れた環境に触れる事が出来る様、また昔からの付き合いのある友人や職場の同僚の訪問も歓迎している。	知人や友人の訪問があり、近くの知人に会いに行くこと等、これまでの関係を継続していけるような支援をしている。馴染みの美容室に行ったり、墓参りや自宅への外出等は家族と協力して、希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しや作業を一緒に行えるように席を配慮している。また、スタッフが間に入りフォローしながら共通の話題などで皆で過ごせる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療関係や福祉関係への紹介を行ったり、ご家族とご本人の意向を伺い相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普通の会話の中からくみ取り、スタッフが情報として共有し、出来る事から実現するようにしている。	入居時に利用者の思いや希望を聞いており、困難な場合には家族から情報を得ている。普段の生活の中から意向を汲み取り、職員会議等で利用者一人ひとりについて話し合い、情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報から、これまでの状態を知るだけでなく、ご本人やご家族から聞き取りを行い、これまでの暮らしを把握する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で個々の状況を確認し疾病については主治医に相談し把握に努めている。施設の生活パターンに当てはめるのではなく個々の気持ちに合わせて過ごせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時のみでなく普段からご本人、ご家族、スタッフに意見を頂き、現状を把握し介護計画に反映できる様に、こころがけている。	介護計画は、入居時や日常生活の中で利用者や家族に意見を聞いて作成し、毎月のカンファレンスにて利用者の現状に即したプランになるように作成している。介護計画の見直しは6ヶ月毎であるが、状態が変化した場合に随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時やカンファレンス時にスタッフ全員で個々の状況を話し合いケアの実践をしている。また、介護計画に基づく記録の書き方も実践し、項目毎に見る事が出来、見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人又はご家族からの要望に応じて、病院受診や医師の訪問診療を行っている。また、お盆年末年始など自宅訪問・外泊への支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 ハートワンの春の力を生かしている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や消防の方に協力して頂き、避難訓練を行っている。地域の行事にも利用者の方と一緒に参加出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やが家族が希望とする病院を受診して頂いたり、疾病内容により、主治医の方から専門の病院を紹介して頂き連携し治療経過を見て頂いている。	希望のかかりつけ医への支援体制を整えている。協力医療機関の医師による月2回の定期健診等の往診があり、歯科や眼科などの通院は職員が支援している。協力医療機関との連携ができており、緊急時にすぐに対応ができ、利用者や家族にとって安心できる環境である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時や変わった事があった時は、医師や看護師に利用者の状態報告し、必要に応じて受診や薬の相談をしたり、定期的に検査も実施してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も主治医や病棟の看護師と連絡、相談し一日でも早く退院できるようにしている。またスタッフも交替で面会に行ったりしご本人に安心して頂ける様に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族や医師、管理者をまじえて話し合いを行い、スタッフも共有し、ホームで支援する方向性を示した指針も定められている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応について、入居時に事業所の指針を説明し、同意書をもっている。指針をもとに家族と話し合い、主治医と連携して支援していく方針を全職員が共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の研修は実技も交え定期的に行っている。またカンファレンス時にスタッフ全員で個々の状態に応じ事故防止を話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の火災訓練を行っている。うち1回については、地域住民や消防署と合同で行っている。勉強会などでスタッフは繰り返し避難方法をシュミレーションしている。</p>	<p>防災訓練は年2回実施しており、その内の1回は地域住民も参加している。消火器の使い方の訓練や消防設備の定期点検も実施している。非常用の食料・水も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人のプライバシーに関する事は、耳元で小さな声で伝えたり居室へ案内し声かけを行っている。失禁なども速やかに対応するようにしている。</p>	<p>入職時に、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について説明している。勉強会やカンファレンス等で具体的な事例を出し個人を尊重したケアの実践を確認し、支援を行っている。日頃から利用者に対して、配慮した声かけを心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶の時間や入浴などゆっくりとした時間の中で何が食べたいか、どこに行きたいか、不満はないかなどを聞きだし、計画を立て実現している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかなスケジュールは決まっているが過ごし方については、散歩やレクリエーションで何がしたいか等、意見を取り入れ、内容の工夫をしたり、喜ばれるお菓子作りに力を入れている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>毎朝の整容を行っている。化粧を希望される方はご家族に伝え化粧品やクリームを使用される方もいる。散髪も外へパーマや染めたりとされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきから調理の揚げ物まで利用者と一緒に作り、片付けは、食器拭き、ふきん洗い、棚へしまうまで皆さんで協力しながら行っている。	献立は利用者の希望を聞いたり、食材購入も一緒に行っている。利用者も、それぞれ食事の準備や後片づけ等を手伝っている。職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量（主食・副食）、水分量の摂取した量と時刻が解る様に記録している。栄養バランスは毎食毎に成分に分け記入している。食欲のない時はバナナなど捕食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている自力でされる方も確認、仕上げ磨きを行っている。口臭や舌苔などがある場合はスタッフで情報を共有しすぐに対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人にあった時間でトイレへの声かけや案内を行っている日中と夜間で下着やおむつなども量や種類を変えている。排泄後は温かいタオルで清拭を行い清潔を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表を作成して、カンファレンス等で話し合っている。また適時に声かけトイレ誘導を行い、できるだけおむつをしないで済むように、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では食物繊維を取り入れた物、ヨーグルトや牛乳、きなこなど毎日摂れる様に工夫している。排便のない時はマッサージホットパック等使用し働きかける。下剤の使用も病院と相談しながら服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日は決まっているが、時間帯は本人に尋ねて入浴している。入浴時間も本人と話しながら時間を取っている。気持ちよく入ってもらう事を第一にカンファレンスで話し合っている。	入浴は週に3回の計画であるが、利用者の希望を尊重して自由に入浴できる。一人ひとりがくつろいだ気分で入浴できるように個別の入浴支援や入浴剤などを入れて気持ちよく入浴できるように支援している。また近くの温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後、食後等は眠気が強い為自室へ案内し休んでもらっている。自室にて休みたくない方はソファなどを使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が薬を尋ねた時は説明を行っている。飲み忘れ、誤薬を防ぐ為にも確認を行っている。症状の変化が現れた時はすぐに病院と連携を取って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活の中で家事や炊事を分担し得意な事や出来る事を自発的にして頂く様に声かけしている。好きな本や新聞、俳句などをされている時はそちらを優先して頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>室内で一日中過ごす事のない様に毎日の散歩や1F・4Fを利用して外の空気を感じて頂く様に努めている。お墓参り、買物、外食、地域の行事等には足を運ぶ様に家族と相談しながら外出している。</p>	<p>日常的に近くの神社への散歩やスーパーマーケットへの買い物などを行っている。地域の十五夜や運動会に参加したり、花見などの行事にもリフト付き車両を利用して外出支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は所持していないが必要な物、欲しいものは一緒に買物に行き、購入する喜びを持ってもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>はがきを出される方もいる。贈物が届いた時など必ずご本人に電話で話して頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には毎月、季節の物を利用者の方々と一緒に作り飾っている。ベランダには季節の花と一緒に植え替えている。旬の野菜や花なども、リビングなど目につく場所に置き季節を取り入れている。	リビングは広く、季節ごとの飾りものや写真が飾っており、和室には仏壇が設置してある。ベランダには、利用者が栽培している花などが置かれている。利用者は清潔な空間の中で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や台所の近くなどに一人用の椅子を置きリビングにはソファを置いている。和室の畳を利用される方もいる。仲の良い利用者同志で居室にて世間話されている事もよくある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を用意して頂ける様ご家族と話し合い、自宅から箆笥や置物、化粧台、ご供養の為の品々等を持って来られている。家族の写真や絵なども持って来られ居室に飾って穏やかに暮らせる様に心掛けている。	居室には、本人の使い慣れた家具や化粧台・テレビ等が置いてあり、家族との思い出の写真や季節の花等が飾ってある。また、仏壇や神棚があり安心して暮らせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室、トイレに手すりを設置し自力で移動し易い様に、また家事等も個々の力に応じてされている。常にスタッフが見守り、不安や心配がない様に声かけ、介助をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない